

《今月のトピックス》

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症:** 7 件 (O157 VT1VT2 4 件、O157 VT2 1 件、O157 H7 VT2 1 件、O103 VT1 1 件) の報告がありました。これらの事例の感染経路、感染原因は現在調査中です。本疾患は例年夏季に感染者数が多く、引き続き注意が必要です。  
 ◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- デング熱:** 3 件の報告がありました。すべて渡航先(フィリピン、インド、タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。
- レジオネラ症:** 肺炎型 2 件の報告があり、どちらも尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は現在調査中です。
- レプトスピラ症:** 1 件の報告がありました。観光旅行先(ラオス)での川下りによる水系感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの感染によって発症する急性熱性疾患です。病原性レプトスピラの保菌動物の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。感冒様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型(ワイル病)まで多彩な症状を示します。国内でもカヤックインストラクターなど、河川でのレジャー産業に従事する人達や、ネズミなどへ接触した人で散発事例がみられています。一方、国外ではブラジルなどの中南米、タイなどの東南アジアなど、熱帯、亜熱帯の国々で流行しています。詳しくは下記ホームページをご参照ください。  
 ◆レプトスピラ症について(国立感染症研究所)  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/leptospirosis/392-encyclopedia/531-leptospirosis.html>  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/335/tpc335-j.html>
- 急性脳炎:** 2 件(どちらも幼児)の報告がありました。病原体は現在調査中です。
- 梅毒:** 3 件の報告がありました。2 件は早期顕症梅毒Ⅱ期で、国内での異性間性的接触および同性間性的接触での感染が推定されています。もう 1 件は早期顕症梅毒Ⅰ期で、国内での性的接触が推定されています。
- 風しん:** 18 件の報告がありました。6 月下旬以降、市内の届出が急増しており、既に昨年 1 年間の約 4 倍(56 件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の 20~40 歳代の男性ですが、10 歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.8.27現在)

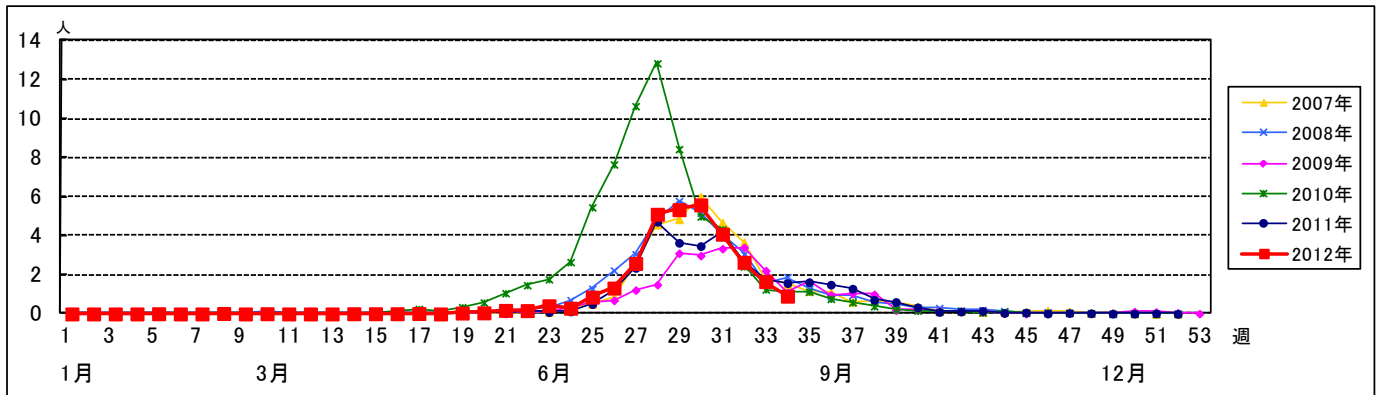


◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

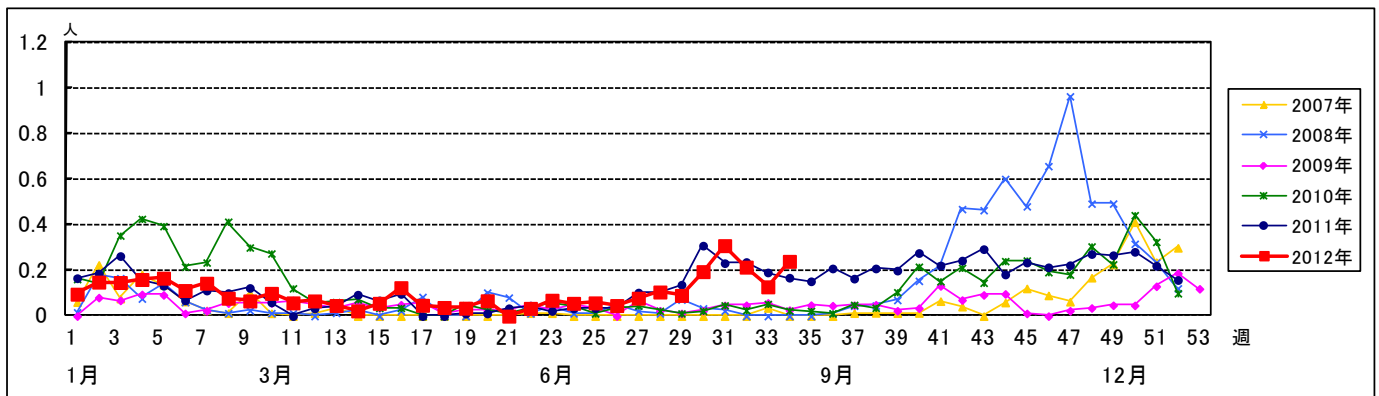
## 定点把握の対象

平成 24 年 週一月日対照表	
第 30 週	7 月 23～29 日
第 31 週	7 月 30 日～8 月 5 日
第 32 週	8 月 6～12 日
第 33 週	8 月 13～19 日
第 34 週	8 月 20～26 日

- 1 **ヘルパンギーナ**:今季の流行は市全体で第 30 週に定点あたり 5.59 とピークとなった以降は減少傾向が続き、第 34 週は 0.91 と落ち着き、今季の流行は終息したものと思われます。区別でも、警報レベルの流行は見られません。



- 2 **RSウイルス感染症**:第 34 週は市全体で定点あたり 0.24 と、大きな流行は見られませんが、最近 5 年間の中では比較的報告が多い状況です。



- 3 **性感染症**:7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 21 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 1 件でした。
- 4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は 1.60～1.40(例年定点あたり 0.2～0.6 程度で推移)と増加しました。最近では少し落ち着いてきたものの、第 30 週 0.98、31 週 0.94、32 週 0.98、33 週 1.14、34 週 0.98 と、0.80～1.00 程度の報告が多い状態が持続しています。横浜市でも第 30 週 2.33、31 週 0.00、32 週 1.50、33 週 1.00、34 週 0.00 と、やや報告が多い状態が継続しています。第 30 週に無菌性髄膜炎 2 件(どちらも 30 代女性、病原体は未検出)、第 34 週に 2 件(どちらも幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:7 月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>